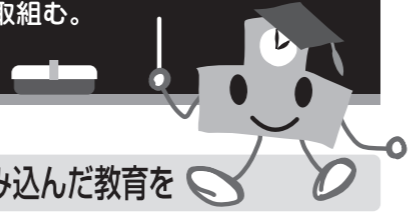


小学校の事例 白石区 南郷小学校

# 近未来の自分たちの生活のため、限りある資源を意識。エネルギーから環境を考える。

「なぜエコなのか」「なぜ省エネなのか」  
子供たちに芽生えた環境問題に対する意識をきっかけに、  
様々な視点で「エネルギーから環境を考える」ことに取り組む。



## はじまり 自ら考えて行動する力 素地を育むために もう少し踏み込んだ教育を

平成18年度からエコライフレポートに取り組んできた結果、子供たちの中に環境問題に対する意識が芽生え、教室の電気の使用量や水の使い方に注意するなど環境保全やエネルギー省力化を意識した行動も見られるようになってきた。さらに、「なぜエコなのか」「省エネなのか」という自分たちの行動の背景を知り、自ら考えて行動する力、素地を育むために、もう少し踏み込んだ教育を実践したいと考える教職員もいたことが、取組開始のきっかけとなった。

授業実践を始めた平成19年度は、3年生の理科「明かりをつけよう」と6年生の理科「電流が生み出す力」のそれぞれの単元を発展させた。平成20・21年度は4～6年生で、北海道エネルギー教育研究会が作成したエネルギーに関するパッケージプログラムを活用したり、本校独自の単元構成(5年生の理科「流氷による土地の変化」)を作成したりして、取り組んだ。これらことから教師側も教材研究や授業研究に力が入るようになり、今年度は全校をあげて「エネルギーから環境を考える」ことに取り組んでいくことにした。



平成19年・6年理科「手回し発電機」



平成20年・5年理科「自転車発電」



4年社会「電気はどこから～水力発電所見学」



6年修学旅行～火力発電所見学

## 内容 自分たちの生活に何が大切か 判断力を育むカリキュラム

ねらいはエネルギー教育をととして近未来の自分たちの生活を考え、何が大切か判断する力を育むことである。以下が平成22年度の具体的な年間実践計画である。

6月 4年生と5年生を対象にエネルギー環境問題に関するアンケート。

7月 5年生 社会「工業生産を支える人々」  
電気自動車、ハイブリッド車を扱い、環境に配慮した自動車作りを考える。

4年生 社会「電気はどこから」  
実際に水力発電所を見学し、発電の規模の大きさを実感する。「北のでんきものがたり」(副読本)を使用する。

9月 5年生 理科「気温の変化・天気の変化」  
異常気象などのようすから地球温暖化を考える。「南極の氷」から環境を考える。

10月 4年生 理科「電気のはたらき」  
光電池の利用から社会科の学習と合わせて太陽光発電などを学習する。

3年生 社会「見直そうわたしたちの暮らし」  
近隣のスーパーへ行き、廃棄品を出さないための売り方やリサイクル回収活動など、環境にやさしいお店の工夫を知る。

5年生 理科「電流が生み出す力」  
電磁石とは何かを知り、性質を調べてモーターを作る。どのように組み立てると電気のロスが少ないかを考えてロボットを作る。

6年生 理科「電気の利用」  
発電、蓄電を学習した後にいろいろな発電方法を学習する際に原子力発電を扱う。

11月 6年生 家庭科「まかせてね!きょうのごはん」  
エコクッキング～環境に配慮した食生活

12月 6年生 社会「平和で豊かな暮らしを目指して」  
高度成長の中での電気製品の普及を扱う。

3年生 理科「明かりをつけよう」  
明かりをつけるには、どこに導線をつなぐとよいか。電気の通り道が回路になっていることを学習する。

5年生 家庭科「くふうしよう!かしこい生活」  
3Rの意識を大切にしながら学習を進める。

6年生 家庭科「くふうしよう!季節に合う暮らし」  
照度計を複数個使い、電灯を点けた時と点けていない時の様々な場所の明るさを比較する。

2月 4年生の児童と保護者にエネルギー環境教育に関するアンケート



6年理科「電気の利用～発電床」